

平成18年度事後評価結果（平成18年11月）

[研究開発課題名] 既設光ファイバ網に適する超高速・長距離光伝送技術の開発

[委託機関名] 三菱電機 株式会社

項目	評価	総合所見
総合所見	A	<p>(技術関係)</p> <p>研究目標を着実に達成し、可能なものは、目標を上方修正するなど、非常に前向きな研究開発の姿勢がうかがえ、成果の達成度も非常に高いと思われる。</p> <p>知的財産も着実に確保しており、世界に対する優位性は維持されているものと考えられる。本高速・長距離光伝送技術に見合うだけの光交換能力が別途達成できれば、ドラスティックなインフラの変換が期待できる。</p> <p>(事業化関係)</p> <p>同社が豊富な実績を有するWDM光伝送システム事業における次世代の製品を中心とした事業化計画である。事業化体制も関連部門が中心となっており、2008年までの研究開発費は自己資金で確定済み、また事業部門の製品ロードマップにも組み込まれるなど、企業内における注力度も高く、確度の高い計画となっている。</p>

(注) 総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。